



豊かな情操と創造力を

少年自然教室に77人

今年の「少年自然教室」は、七月二十七日から二十九日までの三日間、町民いこいの森をベースキャンプに八塩山麓一帯で行われました。

これは、自然の中での規律ある団体生活を通し、子供たちに豊かな情操と創造力を身につけさせるとともに、自立心や協調性を養い、互いの友愛と親睦を深めさせよう。と、町公民館が、小学校六年生を対象に昭和五十二年から毎年実施しているものです。

教室には六校から七十七人が参加。教育長、公民館長はじめ関係職員、それに各校の先生方からの指導を受け、楽しい二泊三日を過ごしました。

「頂上はまだア」、「もうすぐ、もうすぐ」の声に励まされ、息を切らしながら初めて登った八塩山。星空の下でのテント泊。カードハンターやナイトハイク。ビー玉遊びにパッチ打ち。歌やフォークダンス。夜空に赤く燃え立つキャンプファイヤー。などなど。

わずか三日間という短期間の共同生活は、子供たちに連帯感と強い友情の絆を生み出し、さまざまな体験は、少年時代の楽しい大きな思い出となって小さな胸の奥に刻み込まれたようでした。

町の生活目標

1. 町の心は明るいあいさつ
2. きれいな町で健康なくらし
3. ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
4. 学び・働き・助けあう・ゆたかな心

仁賀保矢島 ほか 県道視察

知事の市町村訪問

道路改良促進などを要望



大吹川・須郷地区住民から仁賀保矢島館合線の改良促進の要望を聞く知事(須郷地内で)

「県民のなまの声を聞き、県政に反映させたい」として県内各市町村を巡回訪問している佐々木知事は、七月九日午後、鈴木地方課長、木谷由利地方部長ほか由利総合庁舎の各所長とともに本町を訪れ、県道四路線の現地視察と、町開発センターで町長以下町執行部、議会議員、教育委員、各団体役員ら百四十人余りと懇談しました。

午後一時過ぎに本町入りし 一行は、小松町長の案内で 後向田館合線・同山崎鴻屋十

文字線を視察。関係者から各路線概要について説明を受けるとともに、沿線の大吹川・須郷・黒淵地域各集落・松柴の人たちから▽改良促進▽用地交渉時期▽出羽丘陵開発などについて要望を聞きまし

途中、仁賀保矢島館合線の矢島町界にあたる茶屋長根には、矢島側から茂木矢島町長も足を運ばれ、本町の小松町長とともに同線の改良促進を強く要請しました。

現地視察を終えた一行は、午後三時半過ぎから約二時間にわたり、町議会議員や各団体役員らと懇談しました。

冒頭、訪問のあいさつにたった佐々木知事は、今年度から昭和六十五年までの基本構想と前期五カ年間の実施計画をまとめた秋田県総合発展計画にふれながら、「各市町村の振興・基本計画と適合性を持ちながら、発展計画の『地域版』を策定中である。この中では、地域のかかえている問題についての取り組み方を明らかにし、次年度からの予算に反映させていきたい」と話し、「第二臨調などにより、地方行政は極めて厳しいものになると考えられるが、皆様と力を合わせ、県勢発展のために努力していきたい」と県民の理解と協力を要請しました。

このあと懇談に入り、町側参加者からは▽道路改良の促

進▽畜産振興▽水田再編▽林業振興▽行政改革―などについて要望・意見が出されました。

懇談を終えた一行は、最後に県道橋淵横渡線を視察し、同線の改良促進を願う黒沢・大台地区の人たちの要望を聞き、帰路につきました。

今回町側参加者から出された主な要望事項、及び県側からの回答概要は次のとおりです。

〔要望〕 国道一〇七号線蔵工区改良工事の促進と、新たに奥ヶ沢工区・大琴工区の設定を。

〔回答〕 現時点での新工区設定は無理。蔵工区を早期に完成し、その後新工区設定を考えている。

〔要望〕 仁賀保矢島館合線の川原田橋から石高までの改良工事促進と、石高地区工事終点から大吹川までの未改良部分を引き続き施行してほしい。

〔回答〕 未改良部分については、引き続き「雪寒事業」で実施したいと考えている。

〔要望〕 県道山崎鴻屋十文字線の未改良部分は、公共事業で施行してほしい。

〔回答〕 昭和五十八年度に、県単事業から公共事業に切り替えて実施したいと考えている。

〔要望〕 出羽丘陵縦貫道の改良促進と国道昇

一格を。

〔回答〕 既存路線を結び出羽丘陵縦貫道の路線を設定しているが、予算効率等の面から、国道昇格よりも路線ごとに各制度を利用して改良を進めていった方がよいと考え、それぞれ工事を進めている。

〔要望〕 公社導入牛の単価と県単保留事業の一头当り単価の増を。また、保留事業の貸付期間を延長してほしい。

〔回答〕 単価については、国の単価と市場動向を勘案し、実勢を考慮しながら来年度予算に配慮していきたい。期間については、回転を早くして対応していただきたい。

〔要望〕 畜産振興のため、獣医師の養成と配置に県でも配慮されたい。

〔回答〕 貴町には、七月一日付で中央家畜診療所から竹下獣医の派遣が決定している。要望に沿うよう、関係機関に働きかけていく。

〔要望〕 転作等目標面積の配分にあたり、汎用農地化指数を導入することは実情に合わないと考えられるので配慮されたい。

〔回答〕 配分方法については、関係者とじゅうぶん協議の上決定したものであり、各農家の理解と協力を願いたい。

〔要望〕 第二臨調における国庫負担率の地



直径四十センチの
標的めがけ、
正確に注水

小型ポンプ
操法では、直
径四十センチの標
的(丸い輪)
をめがけ注水
し、勢いよく
出る水と、大

訓練には八小
隊が出場。各
団員は、気合
のこもった指
揮者の号令に
合せ、きびき
びした動作で
日頃の訓練の
成果を競い合
いました。

町消防大会
「あつまれ」 「前列、四歩
前へ進め」 — 今年の町消防
訓練競技大会は、七月十五日、
台山グラウンド、開発センタ
ー前駐車場で行われ、結果、
第五分団が昨年に続き各部門で
一位となり三年連続総合優勝
を果しました。

町消防大会

標的めがけ注水

五分団が今年も各部門で一位

この日は、明け方に激しい
雨に見舞われ、開会式と消防操
法競技の会場は、台山グラウ
ンドから開発センター前駐車
場に変更されました。
競技種目の小型ポンプ操法
には十六班、自動車ポンプ操
法に四班、通常点検及び小隊

域特例について、かさ
上げ率の引き下げは、山
村・豪雪地帯等、後進地
域の地域格差を拡大する
ことになるので、絶対阻

止されるように配慮され
たい。また、これに呼応
して、県の補助率を引き
下げるようなことはしな
いようにしてほしい。

〔回答〕 関係機関と連携
をとりながら反対運動を展開
している。市町村においても
過疎地域指定などに影響する
ものであり、法律・補助率の現

状維持を関係機関に働きかけ
てほしい。
県の補助率については、国
との関連もあり、ここでは言
明できない。

市郡消防訓練大会

訓練礼式の部で二位

粒の汗を流しながら操作にあ
たる黒く日焼けした団員の顔
からは、住民の生命と財産を
守る消防人の心意気を感じら
れ、来賓や参観者から大きな
拍手が送られていました。
また競技とは別に、大吹川
私設消防団、大琴婦人消防隊、
役場特設消防隊が小型ポンプ
操法を、大琴・田代・館合の
三地区婦人消防隊が消火栓操
法をそれぞれ披露、公設消防
団に勝るとも劣らない操作に

会場からひととき大きい拍手
が送られていました。
成績は次のとおりです。
〔総合の部〕
・第一位 第五分団(佐々木
善一郎分団長)
・第二位 第二分団(遠藤繁
分団長)
・第三位 第四分団(木島久
悦分団長)
〔通常点検及び小隊訓練の部〕
・第一位 第五分団二部
・第二位 第五分団一部

七月二十五日に本荘市公園
前広場で開催された市郡消防
訓練大会には、町消防訓練大
会の各部門で一位となった第五
分団員がそれぞれの部に出場
し、各市町村代表の消防団員
と日頃の訓練の成果を競い合
いました。
結果、各部門に上位入賞を果

たし、本町消防技術が郡内で
もトップレベルにあることを
物語りました。
各部の成績は次のとおり。
〔総合の部〕 第四位 〔訓
練礼式の部(通常点検および
小隊訓練)〕 第二位 〔小
型ポンプ操法の部〕 第四位
〔ポンプ車操法の部〕 第七位

国道107号線 早期改良整備を

高速交通体系へ対応



早期改良整備をさらに強く要請していくことを決めた総会

「横手〜本荘間は一時間で」
— 本荘・東由利・雄物川・
平鹿・横手の二市三町で組織
する国道一〇七号線整備促進
期成同盟会の定期総会が、七
月二十一日、雄物川町の三吉
山荘で開かれました。
総会には、各市町の首長・議
会議長のほか、来賓として、
根本・川俣・村岡三国会議員、
柴田県会議員、麻生県土木部
技監、梅森県道路課長、由利・
平鹿の地方部長・土木事務所
長らも出席。行政改革など厳
しい情勢の中で、沿線住民の
生活及び福祉の向上、産業発
展のため、同線の早期改良整
備を関係各方面にさらに強く
はたらきかけてゆくなどを内
容とした事業計画を決めまし

た。
一〇七号線は、横手・平鹿
の内陸部と本荘・由利の海岸
部を結ぶ大動脈であるにもか
かわらず、未だ狭く曲がりく
ねった区間が随所に見られ、
高速交通体系への対応の面か
ら、一日も早い改良整備が
望まれています。
こうした狭あい曲折区間は
特に本町に多くあり、この改
良整備の促進は、町発展に重
要な意味を持っており、町で
は、現在進められている蔵工
区の促進と併せ、新たに山崎
地区・大琴地区・奥ヶ沢地区
の改良整備に着手するよう、
さらに関係各方向に要請して
いくことにしています。

路 整 備

黒淵ノ地 下ノ沢間 一、九六一メートルの舗装完成

県道羽後向田館合線

県道羽後向田館合線の黒淵ノ地下の沢間一、九六一メートルは、今年、八千百万円で車道幅員六メートルの舗装工事が行われ、先ごろ完了しました。

同区間は、県営圃場整備事業とも関連して、昨年、一昨年の二カ年にわたって全幅八メートルに改良されていたものです。羽後向田館合線は、羽後町の下仙道から本町の智者鶴・黒淵を通過して田代に至る路線で、住吉から

田代の沖田橋までの間については、昭和五十七年から工着手したいとして、現在、用地買収事務を進めています。

また同線は、出羽丘陵中央縦貫道路線になっており町では、地域の均衡ある開発発展を図るために黒淵から羽後町に至る区間についても早期に拡幅改良舗装するよう、県や関係機関に要望しています。



団体営農道整備事業として去る昭和五十四年から工事を進めている須郷線は、今年、六千百万円で改良三二〇メートル、舗装一、〇五五メートルを行います。

同線は、土場沢林道終点(須郷地内)から林道軽井沢線(大吹川ノ茶屋長根ノ矢島に至る)接点までの須郷集落内一、三八二メートルで、全幅五メートル、車道幅員四メートルに改良舗装するものです。事業

費は一億三千八百万円を見込み、このうち六五割が国県の補助金です。

今年度の事業が終ると同線は、全線が改良路となり、残るは三二〇メートルの舗装工事だけとなります。

同線が完成すれば、須郷集落から高屋、土場沢を通過して国道一〇七号線にぬけるまでは全線が舗装道路となり、経済交流はもちろん、生活圏の拡大など今後の地域発展に大

残るは舗装三二〇メートル

一、三八二メートルの須郷農道

大きく貢献していくものと期待され、一日も早い完成が待たれています。



すすむ道



新沢～羽後町古米沢間

全幅五メートル・車道幅員四メートルに

新沢線は、今年、三千二百万円、舗装四六〇メートル、橋一橋を予定しています。同線は、町道整備事業として昭和四十七年から八カ年の歳月と一億四千二百七十七万円を投じ、宇戸坂から新沢までの三、三二〇メートルが改良舗装されました。その後昭和五十五年、延長線上の荒沢を通り羽後町古米沢に至る四、三五四

改良舗装されることになったものです。昨年は、三千万円、舗装一六五メートル、装三八〇メートルが行われました。今年度事業は去る四月に発注され、舗装工事はすでに完了しています。

の舗装工事だけとなります。これまで、幅員が狭くて冬期間の除雪車が集落の途中から引き返すという同線でしたが、このたびの改良によってこうした問題も解決されることになり、地域住民は一日も早い完成を待っています。

るの三三〇メートル

今年度で全線改良済

黒瀨～葎沢間一、〇七〇メートル

町では、黒瀨から葎沢に至る延長一、〇七〇メートルを全幅五メートル、車道幅員四メートルに改良舗装することにし、昨年からの工事を進めています。

これは、須郷線と同じ団体営農道整備事業として施行しているもので、総事業費は八千四百十万円を見込んでいます。

初年度の昨年は、三千万円、舗装七四〇メートルを予定して、今年度は、改良済となり、来年度に残



町内で実施されている公共事業

- 1、国道一〇七号線改良事業 (蔵工区)
- 2、県道改良事業(羽後向田館合線) (仁賀保矢島館合線)
- 3、同 (神岡坂部横渡線)
- 4、同 (橋瀨横渡線)
- 5、同
- 6、町道改良県代行事業 (西山線)
- 7、町道舗装事業 (金山線)
- 8、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業(根小屋地区二期)
- 9、同 (根小屋地区二期)
- 10、同 (袖山地区)
- 11、広域付帯農道整備事業 (高村地区)
- 12、山村基幹農道整備事業 (新沢地区)
- 13、開拓地道路整備事業(八塩地区)
- 14、団体営農道整備事業(須郷地区)
- 15、同 (葎沢地区)
- 16、一般林道開設事業(ボツメキ線)
- 17、過疎基幹林道舗装整備事業 (須郷地区)
- 18、県営圃場整備事業
- 19、団体営圃場整備事業(釜坂地区)
- 20、第二次農業構造改善事業
- 21、新農業構造改善事業
- 22、農村基盤総合整備事業 (略称ミニ総バ事業)
- 23、農村総合整備モデル事業
- 24、土地改良総合整備事業
- 25、団体営草地開発事業

期待できぬ米価の伸び

体質改善と複合経営の確立を

一俵(六十粒)当り一万七千七百五十六円——昭和五十六年度産米の政府買入価格が決まりました。前年比〇・五割、八十二円の増です。

昨年の冷害、石油製品を中心とした農業生産資材の値上がりなど農業生産を取りまく環境がいちだんと厳しくなっている中で、米作を基幹とする本町農業にとって、この「八十二円」は実質据え置きに等しいものです。

「米価が上がらない・イコール農政不在」と短絡した農業政策を語る向きもありませんが、米価決定の背景と、国の予算の七・九割を占める三兆六千九百二十五億円の農林水産業関係予算にスポットをあて、日本農業の現況と方向、本町農業行政の現況と方向についてレポートしてみました。

☆米価の決定

社会的条件が反映

米価は、他の農産物と違い、国民の主食であるということから、公共料金的な一面を持つています。

したがって、米価の決定には、その時どきの社会的な条件が大きく反映され、必ずしも単純な経済評価だけで生産現場の実情に即した価額に決定されとは限りません。

今年の米価算出方法は、「必要生産費・所得補償方式」と呼ばれるもので、基本的には昭和五十三年以降変わっていません。

この方式は、国民総需要量と適正備蓄量(必要量)：一、〇五五万ト)について、その生産費及び所得を補償する方法で、次の三要素が基礎となっています。

- 一、対象農家：必要量生産(限度数量配分方法)
- 二、家族労働力評価：五人以上千人未満製造業の地方平均賃金

〈表-1〉 決定米価の推移

年次	決定米価 (玄米60kg当り)	関連施策	その他
昭和43	8,088	○出荷調整対策費 ○農政推進資金の融資	
44	8,090	○稲作対策特別事業費	
45	8,152	○良質米奨励金・品質改良奨励金	米生産調整
46	8,482	○生産調整協力費	〃
47	8,880	○生産調整協力特別交付金の増額 ○銘柄米奨励金	〃
48	10,218		〃
49	13,500	○臨時稲作営農補助金	稲作転換策 稲対
50	15,438		〃
51	16,432	○良質米奨励金	水田総合 利用対策
52	17,232	○良質米奨励金の増額	〃
53	17,250	○水田利用再編推進特別交付金 ○良質米奨励金の増額	水田利用再 編(第1期)
54	17,279	○水田利用再編推進特別交付金 ○品質価格差激変緩和措置	〃
55	17,674	○水田利用再編対策費	〃
56	17,756		〃 (第2期)

三、地代：自作地は統制小作料(五級)・小作地は実納小作料

今年の米価算出の特徴は、総合的な国民食糧の確保を前提に、稲作偏重農業の打開や生産費のコストダウン努力への期待など、内在的な問題の細部にまでその算定の根拠が及んできたことです。

☆農業生産の基本

需要量生産と環境整備

国の昭和五十六年度当初予算は四十六兆七千八百八十一億円で、約八割にあたる三兆六千九百二十五億円が農林水

産省関係予算です。このうち、農業関係予算の総額は約二兆八千億円、農業基盤整備などの公共事業

逆ザヤがクローズアップ

こうした今年の米価決定の状況から、明年以降の米価を推測した場合、決して安易な期待はできません。

むしろ、国民的な課題とな

っている行政改革(国家財政の再建)が進むにつれ、食糧制度に内在する財政負担(逆ザヤ)の限界論がますますクローズアップされてくるものと予想するのが妥当です。

こうしたことから、米作を基幹とする本町農業は、生産現場の実情に合った米価を要求しながらも、一方では、生産の合理化や複合経営の確立など、内在する問題の解決と体質改善、生産環境の整備等に当面している課題に積極的に対応し、克服しようとする姿勢が強く望まれるところです。

町水田の九六割が整備完了

本町の農業生産基盤の整備は、(表2)のように、昭和三十四年の新農村特別開発事業による津沢地区二三・九割の圃場整備を皮きりに、農

生産流通対策や構造改善事業などの一般事業▽水田利用再編対策などの食糧管理事業のそれぞれが、おおむね三分の一ずつになっっています。

国では、主要な農業施策として次の九点をあげています。

- 一、地域の実態に即した構造政策の推進と農業生産体制の再編成
- 二、需要の動向に応じた農業生産の振興
- 三、生産力向上のための農業生産基盤の整備
- 四、住みよい農村の建設と農業者の福祉の向上
- 五、農産物の価格安定と農業所得の確保
- 六、流通加工の合理化、消費拡大と消費者対策の充実
- 七、農業技術の開発と普及
- 八、金融制度の拡充
- 九、農業団体の整備

これらのことから、農業生産の基本として▽需要に応じた生産量の確保▽優良な農業生産環境の整備——の二つの方向が明らかになります。

このことは、米価にも反映され、予算上の比重を見てもよくわかります。

業構造改善事業や山振事業などの各種制度の積極的利用によって進められてきました。特に、昭和四十五年以降は、休耕による通年施行と相まって急速に進み、四十九年には、全町水田面積の約三分の一にあたる四〇一公頃を対象として県営圃場整備事業に着手されました。

これらの結果、昭和五十五年年度末では、全町水田一、一七〇公頃が整備済となりました。一、一七〇公頃の中には整備不能地も含まれていますが、実質的には、整備可能水田のほとんどが整備完了したと言っているものです。

整備率九六割は、全県の整備率四四・七割、本荘市由利郡内の整備率三四・五割をは

☆町農業の課題

労働力の農業内燃焼

水田利用再編対策の強化、米価の実質据え置きなど、稲作を取りまく情勢はいちだんと厳しいものになってきました。

農家所得は、農外収入の割合が高まり、農業所得の中における米作所得の占有率もここ数年著しく低下してきています。こうした傾向は、今後さらに進むと言っているでしょう。

一方では、行政改革の推進によって公共事業等の規模が

るかに上回っており、本町の圃場整備が全県のトップにあることを表しています。

面工事が終わった本町の圃場整備事業は、今後、暗渠排水整備事業を主体として進められ、昭和六十年までにはその大部分が完了する見通しです。農業施策、特に補助事業の見直しが議論されている中であって、今後の補助事業の実施は相当な条件の制約が予想されます。もちろん、圃場整備も例外ではありません。

こうしたことから考えると、面工事を終え、関連大型機械施設の導入を図り機械化一貫体系を確立した本町の農業生産基盤整備事業は、最も良い時期に、効率的に施行したと言えます。

縮小され、農外雇用の場にも制限が出てくるものと推察されます。

こうした中で、本町農業は、今後、労働力の農業内燃焼を基本に、完了しつつある生産基盤整備の上に立って、米作生産の体質改善と複合経営の確立が最大の課題となります。

既存農地を

高度利用

これには一つに、既存農地

(表-2) 本町の土地基盤整備実施状況

昭和年度	実施事業
34	新農村特別開発事業 (23.9ha)
35	第一次農業構造改善事業 (70 ha)
36	
37	
38	
39	
40	山村振興農林漁業特別対策事業 (35.2 ha)
41	
42	第二次農業構造改善事業 (23.2 ha)
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	
50	
51	
52	農村基盤総合整備事業 (略称：ミニ総パ事業) (14.7 ha)
53	
54	
55	
56	土地改良総合整備事業 (7.3 ha)
	新農業構造改善事業 (2.4 ha)
	土地改良総合整備事業 (7.3 ha)
	融資単独事業 (88 ha)
	県単独ほ場整備事業 286.8 ha
	団体営ほ場整備事業 76.6 ha
	県営ほ場整備事業 401 ha

未利用地の農用地開発

このため町では、市場性や需給動向を考慮しながら、本町の気象・土地条件等に合った作目の選定と栽培技術の普及・流通・価格・資金などの振興策について、農業団体等と協議検討を重ねているところです。

また、この時期に、地域農業振興の大型プロジェクトとして、出羽丘陵地域二十カ市町村が参加し「出羽丘陵開発事業」が計画されています。同事業は、農用地開発公団事業により出羽丘陵地域の低

位利用開発可能地を草地開発し、経営規模の拡大と近代化を進めながら畜産物の安定供給と生産性の向上を図ろうとするものです。(町報S・56・3・1号参照)

出羽丘陵地域には、約二万一千公頃が開発可能地があるといわれ、うち本町分はおよそ千五百公頃という数字が出ています。しかし、この千五百公頃

のうち、植生や地権などの関係から実際の開発可能地は百五十から二百公頃と想定しています。

畜産振興を図る上で、草地拡大が大きな課題とされている町では、議会や農業団体、畜産関係者、地域代表の皆さんと協議した結果、この農用地開発公団事業に参加することにしました。現在、大内町・雄物川町・大森町とも東部地区を形成し、二十カ市町村の最先発地域として昭和五十八年度事業開始をめざし、参加農家の取りまとめや開発地域の選定などの事務を進めています。

肥料は〇・五パト値下げ

所得安定のため 生産資材価格抑制

今年度の米価上昇率は、〇・五割と実質据え置きに等しい低いものとなりました。こうした現実には農家からは、農家所得の安定確保のために、生産資材の値上がりを防ぐべきだとの声が強く出されています。

これについて、野呂田農林水産省政務次官から次のような情報が寄せられました。

とである。特に、今年度は米価の上昇が低く抑えざるを得なかったために、ぜひとも肥料や農業機械の値上りを防ぐべきであるとの観点から、農林水産省としては、全農や関係メーカーを強力に行政指導を行った結果、次の通り「値下げ」又は「据え置き」が実現した。

このように、米作が限界に達している今日、町では、既存農地の効率利用と未利用地の農用地開発を進め、稲作に畜産・葉たばこ・畑作物などを加えた複合経営の安定確立を図っていききたいとしています。

「生産資材の価格の安定を図ることは、農産物生産費の上昇を抑え、農家所得の安定確保をするために重要なこ

一、五十六肥料年度(五十六年七月から五十七年六月)

の肥料価格は、現行価格より〇・五割の値下げをする。(五十六年七月一日から適用)

二、五十六年七月から十二月の農業機械価格は、現行価格を据え置く。

三、農業価格については、十二月が改定期につき、今後、全農とメーカーとの間で交渉されるが、本省としては極力値上げを抑制したいと考えている。」

町民グラウンド 大平スキー場 などを整備

六月定例議会

一億九千九百二十万八千円を補正

町議会第四回定例会は六月二十九日に招集され、会期を同月三十日までの二日間と決めたあと、町長の行政報告があり、続いて一議員が一般質問。このあと、補正額一億円を超える昭和五十六年度一般会計補正予算など、報告一件、請願二件、陳情四件、要望一件を含む十三案件を審議、いずれも原案どおり可決し、会期を一日残して閉会しました。

行政報告の要旨及び可決された案件等は次のとおりです。

行政報告

出羽丘陵 開発 六カ所で説明会

実質残は九、〇七八万円
55年度一般会計
決算概要

三月定例議会後の町政について報告する。

昭和五十五年一般会計決算の概算が出たので報告する。

歳入 二十億五千二百五十万円
歳出 十九億五千四百九十九万円
収支差引残 九千七百六十二万四千円、うち繰越明許費六百八十四万円。昭和五十六年度への実質繰越額九千七百八十四万円

歳入中町税収入は一億四千二百六十六万六千円、予算額比五・四割増、収納率百割となっており、継続十六年完納である。国保税も十五年継続完

となつてゐる。

納であり、町民各位の御協力に感謝申し上げる。

水田利用再編対策の減反割当に対する各農家の計画面積

は、目標面積比一〇四・七割となつてゐる。産米売渡し数量は七万八千三百三十三俵となつており、七月上旬に配分した

出羽丘陵開発事業は、六月四日以降六カ所で説明会を開いたが、農家の意欲、特に青年に意欲が強く、開発可能の



ぼつめき林道法面崩壊カ所は災害復旧事業として採択になった

土地を求めている。入会林の利用についても理解が深まっていると感じた。

今後事業を進めていくに当り、町民各位の理解と協力を期待するところである。

中央家畜診療所の本町担当獣医師に、雄和町出身の竹下君という獣医師の派遣が決定したという連絡を受けている。

農免農道軽井沢線災害復旧事業の復旧費査定額は、九千七百六十七万六千円と決定した。このうち、国庫負担は六

五割で、残りは県と町が2分の1ずつの負担である。各種事情から、高額補助率が適用される可能性もあり、町の負担額は今のところ明確にな

っていない。事業発注を早くし、早期に交通確保ができるようにしたいと考えている。

地続きに地すべりが予想されるカ所があるので、このカ所は「緊急地すべり対策工事」として事業採択になり、二百二十万円の事業費で、昭和五十六年度に実施する。町負担は無い。

ぼつめき林道の災害復旧も採択となった。事業費は一千二百万円、補助率五〇割、起債充当率八〇割、償還に対する交付税の算入率九五割、町の実質負担は百四十四万円、となつてゐる。

山村振興のコンサルテーションの制度があり、本町の▽防雪▽畜産▽林業——についてコンサルタントを依頼している。まだ詳細になつていないので詳細になつた機会に、改めて御報告する。

小学校については、教育委員会が主催して、住吉・玉米両地区の関係者、議員と八回ほど協議している。

農村総合整備モデル事業の袖山・大吹川地区水道の五十六年度分事業、約二、三〇〇坪の導水パイプ埋設工事は、先般完成した。

最後に、最近の天候は、昨年同様に冷害の心配があり、今後、対策に配慮しなければならぬと考えている。

以上で行政報告を終る。

可決案件

【国民健康保険税条例の一部を改正】

五十六年度国保税の賦課税率等を次のように改正した。
カッコ内は現行。
・所得割 百分の四・八(百分の五・三) ・資産割 百

基金の額を一千七百四十万円(現行八百四十万円)とした。

【多目的研修集会施設に関する条例の一部を改正】

新たに次の施設を加えた。
・宿地区多目的研修集会施設「高瀬館」 宿字上ノ台二六三番地の二(五十六年九月竣工予定)

【簡易水道事業分担金賦課徴収条例の一部を改正】
法令等の改廃に伴つて適用法名を改正したもの。

【昭和五十六年度町一般会計補正予算(第一号)】
歳入歳出予算にそれぞれ一億九千九百九十二万八千円を追加し、総額をそれぞれ十九億六千六百五十八万八千円とした。

歳出補正の主なものは、▽心身障害者居室整備資金貸付事業百五十万円▽出羽丘陵開発計画調査費二百三十万円▽町道改良舗装費追加・三路線二千五百六十九万九千円▽町民グラウンド整備費千四百四万五千円▽大平スキー場整備費九百四十五万三千円▽ボツメキ林道災害復旧費千二百一十一万四千円▽島山の下揚水機災害復旧費六百一十八万三千円など。

【昭和五十六年度町簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)】

歳入歳出予算にそれぞれ二十三万六千円を追加し、総額をそれぞれ二千四百五十二万一千円とした。

歳出補正の主なものは、

▽情報センター負担金十二万一千円▽原材料費十三万円など。

請願・陳情等

《付託事件に係る審査報告》

○総務常任委員長報告

・学校林取得について(畠山広正ほか十三名)：陳情中の物件は、玉米財産区有のものであり、処分にあたっては陳情人の届出の主旨をよく汲み取り、解決されるよう希望する。

五月十四日に、町長ほか関係係の出席を求め審査、六月五日には林地調査と陳情人から事情聴取を行ない審議した結果、採択すべきとした。

審査の過程で次のような意見が出されたので附言する。

一、旧学区内集落に感情的対立を生じさせない運用に努めること。

一、同林地内立木のみの管理運用に止め、土地への権利は主張しないこと。

一、同財産を処分し運用する場合、公共的建設費に充当すること。



陳情審査報告する委員長 長谷山総務委員長

○教育民生常任委員長報告

左記三件の陳情等については、町・教育委員会主催の住吉・玉米両地域の話し合いも

進められている等の情勢判断から、なお継続審査したい。

・住吉・玉米小の統合早期実現について(住吉学区有志高沢健一ほか百八十名)

・蔵小・老方小による統合小学校を蔵地区に昭和五十六年度建設方陳情(蔵、法内地区小学校問題協議会会長遠藤真吉ほか六十三名)

・小学校統合促進協議会住吉地区代表小松賢および小学校統合を考える会代表藤丸隆よりの要望書



陳情審査報告する委員長 小野教民委員長

○産業経済常任委員長報告

・町内工場群への支援について(東由利町経営者協議会代表佐藤要次ほか九名)：…本件は、独立した五項目から成り立っており、各項目別に採択・不採択すべきと考える。

項目中の

(一)、新規学卒者の雇用促進
(二)、工業用電力事情の改善
(三)、町営住宅の年次計画建設については、町の産業振興のため、総合的な見地に立って採択すべきとした。

(四)、優良企業の表彰制度

については、町商工会として同制度を講じるのが現段階では適切であるとし、不採択にすべきとした。

(五)、町有除雪機器による事業

所等の有償除雪方については、冬期交通確保との両面運用に困難さがあり、町内の機械所有業者の活用等が望ましく、不採択にすべきとした。

・商工青年婦人の中国視察研修に対する補助金の交付について(町商工会会長佐藤要次ほか)：補助金の整理については当議会でも論議されている折であり、また、採択により他団体に波及し、新たな負担要素になりかねないので、不採択にすべきとした。



陳情審査報告する委員長 川尻産経委員長

○建設常任副委員長報告

・水害からの救済について(寺田自治会長小松光一ほか一名)：…審議の結果、採択すべきとした。

《その他・採択したもの》
・日本農業再建、食糧自給率向上のための食糧制度拡充を求める請願(本荘由利地方労働組合協議会代表者嵯峨善郎)



陳情審査報告する委員長 沼建設副委員長

昭和五十六年産米政府買入れ価格の大幅引上げに関する請願(秋田県米価対策共斗会議議長鈴木清)

・昭和五十六年政府買入価格等に関する陳情(東由利農業協同組合組合長理事小松慎一ほか)

・湯出野集落内道路の改良について(湯出野自治会代表者小野喜一ほか十五名)

・郵便預貯金金利にかかる現行制度の維持等について(郵便貯金協力会代表長沢毅ほか)

・町道大谷地線の早期完成について(大台自治会長木島錦市ほか十一名)

《同・継続審査したもの》
・台山地内消火栓の設置について(新町自治会代表小野熊蔵ほか十二名)：…教育民生常任委員会に付託

一般質問(要旨)

水道問題など

について問う

五十嵐宗憲議員

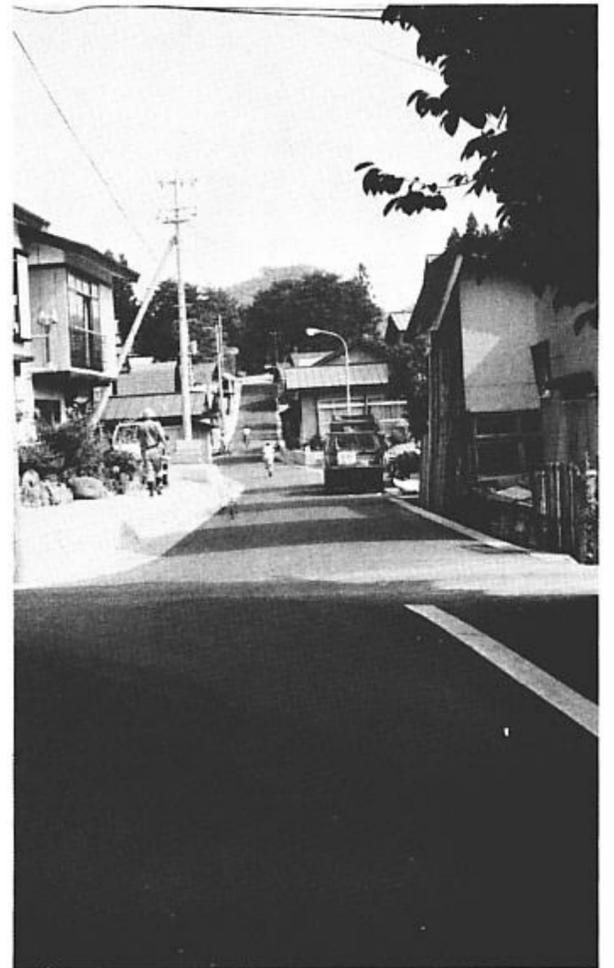
《質問》 東由利水道について

① 断水事故を最小限防止するため、事故の発生しやすいうような所を事前にチェックしておくべきではないか。
② ボツメキの水量が、以前

に比べ低下しているとのことだが本当か。将来ともに、ボツメキ・牧山両地域だけで十二分に供給できるか。
③ 善徳に新たな水源を求めたいと聞くが、積極的に調査検討しているのか。
《町長》 ① これまでもチェックはさせてきているが、水道係だけでなく、関係課員にさらにチェックさせていく。現体制で、職員の行動能力に限りがあることは、町民の皆様のご理解をいただきたい。
② 水量は、短期間の比較では多い少ないの変化はあると思うが、これまでの長期間の中では大きな違いはまだ出ていないと思っている。
ボツメキ・牧山両地区だけではじゅうぶんでなく、新たな水源を確保し、拡張工事をしなければ住民全体の要望には応えられない時期にきていると考えている。ただし、経費がかかることであり、その点は理解していただかなければならない。
③ ひと通り調査は終了、数字も出ている。今後、善徳に水源を持つ適否、未給水地域への新設などについての検討の機会を持ちたいと考えている。

《質問》 東由利町奨学資金貸付基金条例について
① 施行後七年も経過しているのに、貸付額が月額二千元と据置きになっているのは実情に合わないのではないか。
② 今までどれぐらいの人が利用したか。
③ 増額する意思はあるか。
《町長》 一般的な奨学制度はほかにもいろいろあり、町独自の奨学制度については、特殊な目的を持ったものにするなど基本的に考えなければならぬと思うので、今後、教育委員会や皆様のご意見を聞き、研究していきたい。
《質問》 東中体育館が狭くて各運動部の練習が効率的にできない実情ではないかと思っております。小体育館(木造でも結構)を建設してはどうか。
《町長》 財政的事情から、町単独での建設は現実に難しいと考える。
《質問》 事故防止の面から東中校門前の側溝にフタをしてもらえないか。
《建設課長》 側溝を改良するときに、駐車場利用の関係から教職員の方々ともじゅうぶん協議検討した上で現在のような車の出入り部分にのみフタをしたものであり、現時点では側溝全部にフタをするというところは考えていない。
《質問》 本気になって西山開発に取り組んでいくのか。
《町長》 西山地区は東由利にとつて利用価値の高い地域でもあり、開発については、道路改良と並行して考えている。近いうちに、具体的なことについて協議する機会を持ちたいと思っている。

稲荷小路(新)の改良舗装完成



農業集落道として幅員4.5mに改良舗装された稲荷小路

笑顔でいっぱいでした。モデル事業は、若者も喜んで定着できるような農村を—と、生活環境、生産基盤を総

昨年からの農村総合整備モデル事業で、全幅・車道幅員とも四倍の改良舗装工事を進めていた集落道新町二号線(通称・稲荷小路)が先ごろ完成し、七月十九日、沿線住民、町・県・工事関係者、合せて三十人余りが出席して盛大に竣工式を行いました。

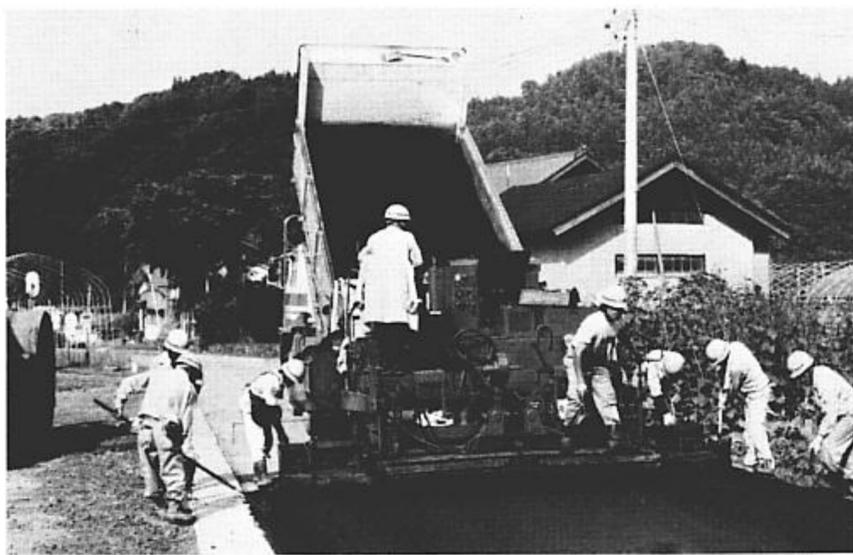
同線の延長は一七三mで、総事業費は二千二百四十九万一千円、このうち、国県補助金が一千三百九十九万九千円、起債(公共債)が七百九十九万九千円、町費が百四十九万二千円となっています。

同線は、これまで幅員三mと狭く、冬期間に万一火災が発生しても救急自動車が入れない状態で、地区住民からは、早急に改良をという声が強く出されていたものです。

こうした地元の願いが、モデル事業の農業集落道整備として実現をみたもので、竣工式に出席した住民は、喜びの

高戸屋線を改良舗装

地区住民ら喜びの竣工式



高戸屋集落内は全線四倍の舗装道路に

町道高戸屋線の改良舗装工事がこのほど完成し、七月二

十五日、地区住民、町・工事関係者、三十人余りが出席して

合的に整備するもので、本町では昨年からの事業を実施しています。総事業費は、当初十五億円を見込み、七カ年の予定で、農道や集落道、農業排水路、集落排水路、水道、防火水槽、研修集会施設、農村公園などを整備する計画です。これが完了すれば、現在実施している各種事業の完成と併せ、恵まれた自然環境の中で都市並の快適な生活環境が確保されることになり、一日も早い事業完了が待たれるところです。

高戸屋集落内は全線四倍の舗装道路に竣工式を行いました。

同線は、高戸屋集落内を一週し、県道仁賀保矢島館合線に接する延長六〇一mの路線で、昭和五十五年年度に二千七百七十七万二千円で全幅五mに改良、今年度一千八百八十六万二千円で車道幅員四mに舗装したものです。

町道は、住民生活に最も深い関わりを持つ大切な道路で、現在、百七路線、一七〇・八がこの認定を受けています。町では、これを一挙に改修することは困難ですので、公共性や利用度を見きわめ、国県の各制度を利用しながら順次に改良整備を進めていくことにしていますので、用地の確保等、関係者の特段の理解と協力を願うものです。

雨の中熱戦展開 第10回町球技大会



雨にうたれ、泥にまみれながらも好ゲームを展開

「ソーレ、ワン、ツウ、ラスト」——今年で十回を数える町球技大会は、六月二十八日、台山グラウンドなど三会場で行われ、一六六チーム・千四百余人の選手が、家庭バレーボール・ゲートボール・ソフトボールなど七種目に白熱したゲームを展開しました。

- 種目別の上位成績は次のとおりです。
- 〈家庭バレー・自治会対抗〉
 - ①蔵新田A ①大琴B
 - 〈同・四十歳以上分館対抗〉
 - ①蔵A ②宿A
 - 〈ゲートボール・老ク対抗〉
 - ①蔵A ②法内B
 - 〈同・婦人会対抗〉
 - ①老方A ②法内
 - 〈九人制バレー・男子〉
 - ①老方B ②玉米B
 - 〈同・女子〉
 - ①宿 ②蔵
 - 〈ソフトボール分館対抗〉
 - ①老方B ②玉米

福祉工場の建設を

五町手をつなぐ親の会研修会

「この人、この子らに生涯のしあわせを、親の手で、社会の理解を」——をスローガンに、七月十一日、町開発センターで郡内五町手をつなぐ親の会研修会が開かれました。

親の会は、精神薄弱児(者)が人として尊敬され、平等に処遇されることを願ひ、親たちが手をつなぐ活動をして、研修会は、特に五町の親たちが交流を続けながら連帯の輪を広げ、将来に向けて地域社会の理解を



求め、精薄児(者)の福祉を高めようと開いたものです。

当日は、東由利・西目・仁賀保・金浦・象潟から精薄児(者)を持つ親八十人余りが参加しました。

研修会では開会式のと、由利福祉事務所の工藤民生課長の講演を聴き、続いて、各町代表者が会の活動状況を紹介しながら事例発表。

このあと、質疑応答と意見交換が行われ、▽精薄者が生きがいのある生活を送れるように、能力に応じた働ける福祉工場の建設を▽親や看護人の死後残された子供らの看護対策▽児から者、者から老後にかけての対策▽教育のあり方——などについて活発な意見が出されました。

最後に、マスコミで報道されているような社会参加を果しているのはほんのひと握りの人たちで、底辺には、まだまだ多く活発な意見交換が行われた研修会

町商工館・盛大に完成祝う

会員ら130人が出席

町商工会が横小路に建築を進めてきました商工会館の竣工式が六月二十七日、町開発センターで行われ、会員、来賓合わせて百三十人余りが出席して同館の完成を盛大に祝いました。

建物は、延床面積二二二・九七平方メートルの鉄筋コンクリート二階建てで、去る昭和五十四年九月に工事着手され、五十五年三月に完成。その後、駐車場の環境整備を図り、先ごろ事業完了となったものです。



待望の商工会館完成を祝い盛大に竣工式

の人たちが社会復帰を願ひ毎日の歩みが続いている。高福祉、高負担など、社会情勢が厳しければ厳しいほど、お互いが手を取り合い、問題点を

集約し、子供らが安心してしあわせな暮らしができるよう関係機関にはたつきかけていくことを確認し、閉会しました。

総工費は四千五十六万円でこのうち県補助金が一千万円町補助金が一千六百万円になっています。

同会館は、事務室、相談室などのほか、二階には大会議室と小会議室二つがあり、会員の研修、会議の場としてはもちろん、地域住民の研修、コミュニティづくりの場としても大きな役割を果たすものと期待されています。

児童扶養手当
特別児童扶養手当

昭和56年8月分から引き上げられます

〈児童扶養手当〉

- 児童1人 31,200円 (従来29,300円)
- 児童2人 36,200円 (同34,300円)

〈特別児童扶養手当〉

- 1級 36,000円 (従来33,800円)
- 2級 24,000円 (同22,500円)

●夏の交通安全運動 8月1日～10日

●飲酒運転追放強調 8月1日～31日

県民運動

重点

- ①歩行者・自転車利用者、特に子どもと老人の事故防止
- ②安全運転の推進と過労運転による事故防止
- ③暴走運転の追放と自動二輪車等の事故防止
- ④飲酒運転の徹底追放

第四回春季社会人野球大会

野球狂が三年連続優勝

二十一チームが参加し、七月一日から熱戦を繰り広げた第四回春季社会人野球大会(朝野球)の準決勝・決勝は、同月十二日、町民グラウンドで行われ、結果、野球狂が蔵ローズに逆転勝ちし、春季三年連続優勝を果しました。

大会戦績は次のとおりです

〈優勝〉野球狂

パワーズA	4	0
パワーズB	0	1
ワイアーズ	7	1
野球狂	7	8
ジャイアンツ	0	2
老方クラブ	3	5
高瀬チーム	0	4
高役場	2	3
パワーズ	2	1
袖山オリオンズ	不戦勝	6
ホングース	6	4
メッツ	3	0
法内ジーンズ	0	2
宿クラブ	3	1
モンスターズ	1	0
法内フラワーズ	0	4
大沼組	0	7
蔵ローズ	15	3
職人クラブ	3	0
新町チーム	2	1
住吉青年会	1	3

〈(町民グラウンド) (台山グラウンド) (横渡グラウンド) (上の台グラウンド)〉

畠山君が(東中)1,500メートル走で大会新

郡市中学校陸上競技大会・総体

野球は二年連続準優勝



郡大会で大活躍の東中野球・剣道・陸上の各部員

郡市中学校総体は、七月二日から本荘市を主会場に行われ、東由利中は各種目に健闘、結果、野球と剣道・個人戦の部で佐藤秀一君(三年)が準優勝を果しました。

特に、野球は、先手をとり好ゲームを展開しながら逆転され、昨年に続きあとひと息のところまで優勝旗をのがしただけに、他校に勝るとも劣らない応援を繰り広げた生徒、教職員、父兄、地域住民らを残念がらせた。

一回戦不戦勝の東中野球部は、二回戦二一〇で西目中を、準決勝一〇〇で出羽中を退け決勝進出を決めました。相手は、古豪本荘市立北中学校。ゲームは、東中が初回に一点をあげ先行すると、北中は二回に二点を入れ逆転。東中も負けじと三回に一点を返して同点となりましたが、二一二で迎えた五回、北中が二死から一点を追加し再びリード。結局、これが決勝点となり、東中ナインは昨年に続き、決勝で涙をのみました。

町長日記

野呂田農林水産政務次官より来信があつて、「米価の決定に当つては、厳しい財政事情、米の需給状況、第二臨調の答申の直後であつて、誠に納得出来ない数字であるが、財界、報道界、労働界や消費者の反対を押し切つて、農家に関連されない対策を避けて、基本米価の改訂が出来たことはせめての救いであつた」とありました。

農業団体からの要請と政府の間にあつての苦労が偲ばれます。それにしても米価のみ四年間実質据え置きは納得出来ません。

出羽丘陵開発促進事業の進捗状況は、前に役場通信で連絡しました様に調査力所三十カ所、面積三百四十六畝となりました。

次の作業は、この事業え

の参加者の決定であります。また、事務作業は、

- 1、土地資源調査
- 2、用地調達調査
- 3、工事計画調査
- 4、受益経済調査
- 5、営農設計調査

と作業を進めることとなります。以上を調査の上、基本計画案を明春の三月三十一日まで農林水産省に送付しなければならぬことになっております。

― 農業は暗いというけれども、朝の来ない夜はありません。未来を信じなければいかなる可能性も生れて来ません。出羽丘陵開発が東由利農業の発展につながることを信じ、意欲的な農家の参加を期待しております。

暑中の折、皆様の御健勝を祈念申し上げます。

同本部交通・刑事の両部長、秋田警察署長等を歴任、

調査から警視正まで二十八年というスピード出世で、県警きつての切れ者といわれ、手がけた難事件の数々はすべて解決した手腕は高く評価されている。現在、県交通安全学校長、県交通安全協会理事、五十三歳。秋田市住。

東由利の地名

= 14 =

小字名の藁沢は、島部落下の西側の山ぎわ一帯から一〇七号線がカーブになっている沢を含め、赤土や岩石が高瀬川にくずれ落ちるばかりの崖までを呼ぶ名である。

このあたり一帯は、南と西側に山を背負っていることから、日当りの極端に悪い土地である。しかし俗称島田んぼといわれる平たんから、稲作に便利であることから、山ぎわのぎりぎりの

沢シリーズ③ わら沢

ところまで、稲づくりが行われたのでないだろうか。少しの雨量でもとつくれた稲は、実りの頃になると太陽が南に傾き、日が短くなることや、冷害・病虫害などによつて、せつかくつくれたのが

と収穫ゼロで、藁だけの年が多かつたのでないか。藁だけの収穫であつても、来年こそはと期待しつくれたが、むなしく裏切られることのくりかえしであつたと思う。

なんでもないような地名だ

が、そこに息づく人々のいろいろの思いが、藁沢にはこめられている。こうした先人の労苦や心情を思う時、せつない思いがこみあがるのを、感傷的すぎるとして片づけられないような気がする。

なお、藁沢地内の国道が直線になる山ぎわからは、冷たい清水が湧きでて往来の人の憩いの場であつたが、改修によつてだめになつてしまった。また藁沢の一角からは湯(薬用効果のある水)がでて、瘡によく効くといつて、近隣から汲みに来たものである。(畑山昭一)

町出身者往来

七月十七日、舟打場出身の畠山亮二郎氏(元警視正、前秋田警察署長) 退任あいさつ

同氏は、昭和二十二年に警察官を拝命。その後、昭和二十五年に調査部長、二十八年に警部補、三十一年に警部、四十一年に警視、五十年に警視正に昇任。昭和五十六年三月に勇退するまでの間、鷹巣警察署長、県警本部鑑識・秘書・捜査第一・会計の各課長、

